

特集 2015世界YWCA総会ニュース

- 4-5面 戦後70年目のクリスマスメッセージ
- 6面 支援とは何か?
- 7面 中国YWCAへの介護支援事業10周年



拍手で迎えられて入場する日本YWCA

# 2015 28th World YWCA Council 世界YWCA総会 ニュース



世界に広がりを持つYWCAの4年に1度の総会が、10月9日から16日までの8日間にわたってタイ・バンコクで開催され、70カ国以上約500人の仲間が一堂に介した。日本YWCAの参加者15人は、多くの関係者による長年の準備を結実させた。

総会決議では①世界YWCAのアドボカシー計画に関する決議②核兵器と3つの決議とアクションの呼びかけ

また、より具体的な道筋として、2016年から4年間の「Strategic Framework (計画と方策の枠組み)」が示された。

運営委員選挙では30歳以下が躍進

日本YWCAが擁立した候補者は惜しくも当選に至らなかったが、特筆すべきは運営委員の60%を30歳以下の若い女性が占めたこと。「2015年には、運営委員の50%を若い女性に」という目標が早くも今回で実現した。

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

12

DECEMBER  
2015

No.729

日本YWCAの使命(ミッション)  
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する  
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第31総会期主題  
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
- 1) 非核・非暴力により平和を実現する  
・平和憲法をまもり、世界に広める  
・原発のない社会をつくる  
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
  - 2) 女性と子どもの権利をまもる
  - 3) 若い女性のリーダーシップを養成する

www.ywca.or.jp

30歳以下の女性が集結

「若い女性の『ための』運動ではなく、若い女性『による』運動」という目標のもと、本会議前に、30歳以下限定の「若い女性フォーラム」が開かれた。5人の日本YWCAのユースをはじめ60カ国以上のユースが集い、「2035年へのビジョン」の実現、国連サミットで採択されたばかりの「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実施について意見を交わした。

新たに2カ国が加盟

現在120カ国以上で活動する世界

「2035年へのビジョン」を構築

本総会の大きな特徴は「2035年へのビジョン構築」が打ち出されたこと。20年後に目指すべき世界とYWCAのあり方をめぐる協議が会期中を通して行われた。

「メンバーシップとアイデンティティ」に関する全体会議では、京都YWCAのユースが登場。ボランティアや職員としての経験から、現状の課題と多世代による協働のあり方を提言し、多くの共感を得ていた。

さまざまな協議を重ねて、最終日に世界YWCAの共通目標が文書の形で採択されると、会場から喝采が沸き起こった。「変革をもたらす大胆な目標」と題された主題文を紹介する。

「2035年には、1億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を實現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能なYWCA運動を先導します。」

また、より具体的な道筋として、2016年から4年間の「Strategic Framework (計画と方策の枠組み)」が示された。



女性への暴力反対キャンペーンのため、黒服でポーズをとる参加者

エンパワーするNGO



## クリスマス募金2015

災害・紛争下にある女性と子どもたちのために

平和や命を脅かされている女性や子どもたちのために、下記項目のクリスマス募金を呼びかけます。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

### オリーブの木キャンペーン募金

紛争が続くパレスチナの地に、平和の象徴であり、パレスチナの人々の生活の源であるオリーブの木を贈ります。1口3,000円で1本の若木を植えることができます。プレートに寄付者の名前が刻まれ、パレスチナから証明書が送付されるので、通信欄に寄付者のお名前をローマ字表記で必ずご記入ください。

### 東日本大震災被災者支援募金

被災地に暮らす子どもたちのために各地域のYWCAが企画する保養プログラムや、保養のために家族で滞在できるセカンドハウスの事業、また福島への支援拠点「カーロふくしま」を中心とした活動等、被災者の方々の心と体のケアのために使われます。これから実施する冬休み、春休みの保養のためにも、さらなるご協力を。

### ピースメーカーズ募金

「平和を実現する人は幸いである」をテーマに、YWCAでは女性一人ひとりがピースメーカーとして平和を実現するための活動を展開しています。来春実施するプログラム「南京を考える旅」など次世代に平和の種をまくためのプログラムや、若い女性のリーダーシップ養成に用います。

郵便振替 00170-7-23723

加入者名 公益財団法人 日本YWCA

通信欄に「クリスマス募金(オリーブの木)」「クリスマス募金(被災者支援)」「クリスマス募金(ピースメーカーズ)」のいずれかをお書きください

インターネットでも受付しています

<http://kessai.canpan.info/org/ywcaofjapan/>



ご協力ありがとうございます

賛助員

鈴木恭子 石原清美 古川道子  
野呂幸子 芳川雅美 齋藤喜子  
森田矩子 田中倍子 村松幸子  
西尾操 鴨打美章 松本幸子  
松田和子 水野雅子 渡辺園子  
乾・康子 具島美佐子  
富田なおみ 山田久美子

ピースメーカーズ募金(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)

仁田裕子 中村安子 古川道子  
齋藤喜子 遠藤真理 手島千景  
橋詰弘道 川村英男 小谷佳子  
塩田純子 村田章子 上代ユリ  
高瀬幸子 吉本元次 奥田京子  
渡辺園子 濱口俊 辻正子  
松原恵美子 秋山有美子  
波多野春子 水落紀世子  
とわの森三愛高等学校 生徒・教職員一同  
横浜共立学園中学校・高等学校  
山梨英和中学校・高等学校  
白聖公会

特定非営利活動法人 東京YWCA福祉会

災害時支援募金  
(国内外の災害被災者支援)

古川道子 齋藤喜子 山田久美子

(ネパール大地震被災者支援募金)  
豊福久恵 倉本真理 倉本久也  
新川美恵子 緒方美智子  
福岡YWCA 日本キリスト教団  
御幸町教会  
公益財団法人京都YWCA 公益財団法人神戸YWCA

(オリーブの木キャンペーン募金)

柿木美空 角井佳子 野呂幸子  
齋藤喜子 天野直子 手島千景  
渡部マサ子 榎本みづ枝

(パレスチナYWCA支援募金)  
日本キリスト教協議会女性委員会  
世界祈祷日集会

ピースメーカーズ募金

東日本大震災被災者支援募金

仁田裕子 古川道子 河津百合 齋藤喜子 伊藤悦子 森田矩子

世界YWCA総会派遣募金  
長崎YWCA  
公益財団法人東京YWCA  
匿名  
2015年8月16日〜2015年10月15日現在 敬称略

杉山知子 村松幸子 手島千景  
松田和子 侯野尚子 乾康子  
新川美恵子 山田久美子  
Mr. Lutz Drescher  
株式会社サン・ナカタニ  
匿名

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室  
Tel. 03-3292-6121 Fax. 03-3292-6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 石井摩耶子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 [y-net@ywca.or.jp](mailto:y-net@ywca.or.jp) | お名前を送ってください / フェイスブック [www.facebook.com/YWCAJapan](http://www.facebook.com/YWCAJapan)

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 [office-japan@ywca.or.jp](mailto:office-japan@ywca.or.jp)

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。

# Voice

28th World YWCA Council

たくさんの出会いに感謝!

## ユース参加者の声

票、ワークショップなど貴重な機会を逃すまいと全力で聞き、考え、一方で自分の限界にもどかしい思いも多々ありました。世界の若いリーダーたちを目の当たりにし、それぞれとてもリスペクトしつつ、私もしっかりしなければ!と思われました。

東京YWCA 吉田夏子

### 認識の差を思い知った

プログラムの中で最も印象に残っているのは、「ジェンダー平等の達成」について、地域別に行ったディスカッションでした。自分と同世代の東アジア(台湾、韓国、中国、日本)の女性たちとの議論の中で、「徴兵制がある韓国では、男性だけに兵役義務がある限り、ジェンダー平等は達成できない。だからこそ、女性にも兵役義務を課すべきだ」との意見が上がり、徴兵制に対する日本人との認識の差を思い知らされました。

沖縄YWCA 砂川真紀

### 課題を乗り越える仲間を得た

「アイデンティティとメンバーシップ」のセッションで、地域YWCAでの経験に基づいた「クリスチャンとノンクリスチャン、職員と会員、ユースとシニアが集まるYWCAにおいて、真にインクルーシブな一つの『運動』をどう作るのか」という問いかけをさせていただきました。「私たちが似た課題を抱えている」といった声を各地の方からいただき、国境を超えて課題を一緒に乗り越えていくための仲間が得られたことを嬉しく思いました。

京都YWCA職員 堀部碧

### 私も一歩踏み出したい!

同世代の若い女性たちとの交流を通して最も強く感じたことは、「私たち女性は、もっと自分の可能性を信じ、輝いてよいのだ!」ということです。世界中から集まる若いYWCAメンバーは、とても活発で盛り上げ上手。そんな彼女たちを見て、今の社会は未だ女性の力を発揮しづらい構造であり、自分たちに可能性があることを気づくことすら難しい状態であると感じました。私も「一歩踏み出したい!」そう勇気づけられました。

京都YWCA運営委員 伊原千晶

### これから私たちが築いていく

「若い女性フォーラム」は若いパワーに溢れていました!ジェンダー差別に関するディスカッションでは、韓国・中国・台湾ユースと共に、職場における女性のリーダーポジションの問題を共有し、差別に対抗するためには「Voice」「Choice」「Safety」が重要だと確認しました。夜には伝統衣装で歌い踊って互いの文化に触れました。本当に豊かな時を分かち合い「私たちがこれからのYWCAを築いていくのだ」とコネクションを強め合う機会となりました。

東京YWCA運営委員 藤原聖帆

### 若いリーダーたちにリスペクト

たくさんの刺激を受けた10日間でした。同世代の女性たちとディスカッションする時間が多く、お互いの問題をシェアし、アイデアを出し合うことができました。総会では、本会議や投



左から藤原聖帆さん、吉田夏子さん、世界YWCA総幹事ニャラザイ・グンボンズバンダさん、砂川真紀さん



堀部碧さん



伊原千晶さんとベニンのユース

## 28th World YWCA Council 日本YWCA 「正義ある平和」を強くアピール



日本YWCAからの参加者たち

### 核と軍事基地の問題を訴える

韓国YWCAと共催した「核問題に関するワークショップ」では、広島・長崎の原爆被害と現在の福島の状態を共有し、核問題に関する日本と韓国YWCAの活動を紹介。核兵器・原子力発電が「女性への暴力」であることを訴求し、韓国YWCAと共同



地図を用いた核問題のワークショップ

### 平和を願うアイテムを配布

会場には各国の品々を展示販売するブースがお目見え。戦後70年を踏まえた日本YWCAのブースでは、広島に寄せられた千羽鶴を利用した再生紙を使ったカードに全国から寄せられた「平和メッセージ」を添えて配布した。また、世界総会のために作成した、憲法9条の英訳を記したティッシュペーパーも注目を集めた。

### 長年の祈りを込めた決議案が採択!

日本YWCAは「核兵器と原子力エネルギーの同等な否定」に関する決議案を韓国YWCAと共同で提出。本会議での提案・協議・採決を経て、最終日の採決で80%の賛成により採択された。この決議は、1970年に日本YWCAが打ち出した「核」否定の思想に基づいたものだ。それが世界YWCA全体の事柄として決議されたことは、大きな進展といえる。

### 決議本文

世界YWCAは、原子力エネルギー(医療目的を除く)と核兵器が、女性・若い女性および少女の安全・健康・尊厳および暴力からの自由を脅かす「女性への暴力」の一形態である、という性質によって表裏一体の存在であり、共に否定されるべきであることを認識し、以下のことを決意すること。

- ・核兵器および原子力エネルギー(医療目的を除く)の使用に反対する声をあげる
- ・持続可能な平和における女性のリーダーシップを求める国連安保理決議1325号に沿って、女性がより大きな役割を持つ、原子力に頼らないオルタナティブなコミュニケーションを創造していくこと。

### アジアのYWCAと共に

1947年の世界総会以来、実に68年ぶ



展示販売ブースでは平和を願うアイテムを配布



ビジョンを語る運営委員候補者たち

### 「正義ある平和」へのコミットメント

今回の世界YWCA総会で、日本YWCAは、核問題・基地問題の「女性への暴力」としての側面や憲法9条の重要性を発信することで、世界の中でも「正義ある平和」についての強いコミットメントを持つYWCAとして存在感を示した。世界のYWCAの仲間たちと確認し合った「インクルーシブで持続可能な運動」をそれぞれの活動で強め、これからの20年も、変化する世界に対応して女性と少女のニーズに応えるYWCAであり続けたい。

日本YWCA職員 小笠原純恵



### 戦後70年目の クリスマスに寄せて

## 聞け、 天の声と民の声を

彼らには泊まる場所がなかった

今年も12月、クリスマスの季節になりました。聖書に書かれたクリスマス物語によれば、イエスの父ヨセフと母マリアはナザレという町で暮らしていました。出産を前に遠くの町ベツレヘムまで旅をします。長旅の果てにベツレヘムに到着し

クリスマスを迎えるこの時も、故郷を追われた人々が安住の場所を求め続けている。他方で、さまざまな人が平和を求めて声をあげ、行動を起こしている。

戦後70年、かつてない危機的状況に置かれたこの国で、希望の光を示すべく私たちは何をすべきか。

過ちを繰り返さないために

日本は、今年戦後70年。長い「平和な時代」が続く、日本人の大部分が戦争を知らない世代となりつつあります。戦争の歴史を忘れないために、今まで沈黙していた人も含めて多くの人が悲惨な戦争体験を語り、平和の尊さを訴えています。また、日本が起こした戦争でアジアの人たちが犠牲になったという歴史が忘れられ、歪められていることを心配する人々たちによって、侵略戦争の歴史を伝える活動も活発に行われています。ところが、その最中に、日本の平和の砦である憲法が無視され、安全保障関連法案という名の一連の法案が強行採決されました。国会の前には、この法案が日本を戦争のできる国にするための「戦争法案」だと反対する人々が連日集まり、昼も夜も、猛暑の日も大雨の日も反対集会を続けてきました。そこには、これまでデモや集会に参加したことのない若者や、幼子を連れた母親たちの姿もありました。しかし、私の住む札幌では、国会前の集会の様子が報道されることがあまりに少なかったのです。インターネットやフェイスブックで様子を知ることができたものの、国民の声を押しこむような不気味な力を感じます。

札幌YWCAは今年、創立65年になります。その活動を長年支えてこられた会員の方がこんな話をされました。「教会の友に誘われて会員になったとき、YWCAは『非核』『護憲』が基本姿勢だと教えられました。それは、教会での奉仕が中心だった主婦にとって新鮮なことでした。しかしその後、福島原発の事故を知り、憲法が無視され

る状況になり、この二つがどんなに大事なことがよく分かりました」と。

札幌YWCAは長きにわたり「原発反対」、「平和憲法を守る」を活動項目に掲げて歩んできました。しかし、今年ほど平和憲法を守ることの重要性を痛感した年はありません。

### 希望と勇気をもって共に立つ

クリスマスは、暗い夜にも希望の光が輝くことを象徴的に教えてくれるキリスト教の祭日です。イエスが誕生した夜、「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。」という天からの声を聞いたのは、荒野で寝ずの番をする羊飼いたちでした。彼らは当時の社会の中では小さな存在で、日々ぎりぎりの生活をする人たちでした。しかし、天からの声を聞くとすぐに立って家畜小屋のイエス・キリストに会いに出かけたのです。

今年、日本の各地で一般市民が勇気をもって声を上げ、行動を起こしました。札幌の町でも「子どもを戦場に送らないために」「平和な日本を守るために」と、これまで政治的な発言をしたことのない人たちが諦めずに声を上げ続けています。戦後70年を絶望の時代の始まりとしないように、私たちが、各地で立ち上がった様々な人たちの声に耳を傾け、共に行動していくことが必要ではないでしょうか。すべての人の生きる権利が守られる、平和な社会を実現するために。

札幌YWCA会長・  
日本キリスト教団真駒内教会牧師  
田中真希子

ためでした。住民登録は、徴税や徴兵のために支配地の住民を管理することが目的で、出身地で行うことが義務づけられていたようです。当時のローマ帝国は、歴史上「ローマの平和」と呼ばれる安定した時代でした。ただしこの「平和」は、強大な軍事力に支えられていたのです。その権力の頂点にいたのが皇帝です。ユダヤの片隅に住むヨセフとマリアでさえ、皇帝の命令一つで理不尽な旅を強制されたのです。もちろん彼らだけでは、多くの人々が自分の意に反し、大きな権力によって旅を強いられました。病を負っている、高齢であるといった一人一人の事情が考慮されることはなく、旅先での安全な滞在場所さえ確保されていませんでした。

今年、世界中の人が心を痛めた一枚の写真思い出します。家族と一緒に戦時下のシリアを逃れ、ヨーロッパをめざして海を渡った幼子の写真です。粗末な舟が転覆して母子ともに命を落としました。幼子が平和な生活を求め、決死の旅立ちをしなくてはならない理不尽さを感じます。世界中で、故郷を追われた多くの人々が、今この時も安心して生活できる場所を求め続けています。日本国内でも、東日本大震災後に仮住宅で暮らす人々、東京電力福島原発の事故のために故郷を追われた人たち、不本意な旅を強いられる多くの人々が、今年も旅先で冬を迎えています。また、さらに国内の原子力発電所が次々に再稼働する予定です。また新たに生活の場を脅かされる人々が増えるのではないのでしょうか。

## 種

そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。

(ルカによる福音書1章39節-40節)

天使ガブリエルから「あなたは身ごもって男の子を産む」という、途方もない予告を受けた未婚のマリアは、「あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている」とも聞かされます。そしてマリアは急いで、そうです「急いで」エリサベトの住むユダの町へと出かけます。マリアの鼓動が聴こえるようです。「本当かしら、天使の言ったことは？ あのエリサベトが？」

天使が言ったことをその目で確かめたマリアは、エリサベトのもとに3カ月ほど滞在します。身ごもった2人は何を語り、どんな声で泣き、笑ったのでしょう。エリサベトと過ごした時間が、エリサベトの存在が、後に神の母となるマリアにどれほど大切であり、必要であり、大きな支えであったことか！

私たちが岐路に立ったとき、悲しみの中に、喜びの中にあつたとき、私たちにも「エリサベト」を訪ね、ともに語り合う時間を与えられてきました。クリスマスを迎えるこの季節、ほんの少し、ゆつたりとした時間を作って、あなたの「エリサベト」に思いを馳せてみませんか？ 今までのあなたの旅路で、どんな時に、どんな所で、神さまはあなたの「エリサベト」を送ってくださったのでしょうか？

景山 恭子  
米国聖公会ニューヨーク教区

# 介護支援を通して 中国YWCAと培った絆

## 東京YWCA・ 100周年記念事業の結実

2004年、東京YWCAは、福祉専門職養成の実績を活かして、中国YWCAの高齢者介護事業の職員養成への協力を開始。研修生の受け入れや中国での職員養成研修など、息の長い支援を続けてきた。中国YWCAと共に歩んだ、この10年を振り返る。



腕の清拭を学ぶ研修生(2008年杭州)

### 中国YWCAへの介護支援事業 10年の歩み

「平和構築、青少年、高齢者問題での交流を」という中国YWCAからの働きかけが契機となり、東京YWCAでは100周年記念事業として、中国YWCAでの高齢者介護事業を担う中核となる職員養成に協力することを決定した。

その頃、中国の介護といえば、家族や住み込みの家政婦さんによる介護が主流で、



板橋センターを見学する中国YWCA視察団(2014年東京)

少しでも専門性のある技術が求められていたのだ。そのため、40年近い福祉専門職養成実績のある東京YWCA専門学校に北京と天津から二人の研修生を招聘。ヘルパー2級相当の科目をはじめ幅広い研修を実施した。通訳を介して真剣に授業を受ける二人の姿勢に、私たちが実に大きな刺激を受けた。二人の研修生は、たくさんの若い人たち、しかも男性も元気に学ぶ姿に驚き、介護の仕事の必要性と大変さを深く感じて、帰国後は早速それぞれのYWCAで介護サービスと職員養成を始めたそうだ。

他方で、北京にて2004年に第1回研修

を実施。現地の介護状況や課題を確認し、2006年第2回研修時には、「介護理念の重要性をいかに職員に浸透させるか、理念なき技術は専門職としての立ち位置を見失う」という指針を繰り返し伝えた。さらに中国からの要請を受け、2008年には介護職員を養成する指導者のための研修(於・杭州)に発展。中国各地7カ所のYWCAから、17名の参加者を得た。研修の成果を直ちに養成事業に活かすべく懸命だった参加者の感想を一部紹介したい。

### 東京YWCA110周年 次の10年に向けての選択と発信

かつて海外のYWCAからの支援で黎明期を創り上げてきた日本のYWCAで、100周年記念事業をきっかけに継続的な海外への支援を選択した当時の会員の方々の英断に敬意を表したい。東京YWCA創立110周年を迎えた今年、改めてYWCAの理念を根幹に、何を選択し、次の10年に向けて何を発信していくのか、中国YWCAの決断力、行動力から大いに学びたい。

東京YWCA幹事 土岐祥子

# 支援とは何か?

長続きする  
支援のために  
必要なこと



出村由利子さんのお話より  
@YWCA活動スペース  
「カーロふくしま」

東日本大震災から4年が経過し、支援する側の疲弊が顕著になっている。被災者を支え続けるために、私たちはどうあるべきか。「カーロふくしま」では、看護の専門家であり、支援活動の心の問題に詳しい出村由利子さんを招いて、キリスト教の視点に立った支援のあり方を伺った。相手のための支援とは——その本質に気づかされた。



出村由利子  
Yuriko Demura

#### profile

看護師  
札幌医科大学大学院看護学科修了。精神看護専門の看護師として海外で実践を積み、現在、旭川大学短期大学部に勤務。ほかにも複数の教育機関で認知症ケア、終末期看護などを教える。

心が体の手入れは自分自身で

患者は医師を頼りきり、医師は一方的に薬を与える……この繰り返しは本当のケアといえるだろうか？ 看護師時代に抱いた疑問をきっかけに出村さんは長年、ケアする側とされる側の関係について考えてきた。人間の心と身体は、神様から預かった「庭」のようなもの。自宅の庭を手入れするように、自分の心身のケアをしなければならぬ。庭をきれいにするためには、雑草が生えたら抜き、必要・不要を整理する

ことが欠かせない。同じように心と身体にも、手入れや整理が必要だと言う。自分でも、手入れが出来ない方に対しては、手伝いが求められる。しかし、心と身体はその人のもの、いつまでも雑草を抜いてあげる、薬をまいてあげる、守ってあげるといふ姿勢は、決してその方のためにはならない。できることまで取り上げては、本人の力を奪うことになる。

#### 一方的な支援が疲弊を招く

ボランティアの活動も同じ視点で捉える

出村さんは、被災者のための保養プログラムに参加した福島の人々のアンケートを読んで、支援者と被支援者の関係について、本質を見失う危惧を感じたそう。人間は、自分自身で考えて、それぞれの生き方を探さなければならぬ。一方的な支援は、その芽を摘みかねない。脳は、慣れてくると依存するもの。「依存する」と「休む」ことは別である。次のステップのために「休む」ことは必要だ。しかし、自分で歩む能力があるにもかかわらず、楽で心地よい状態に慣れすぎると「依存」が生じてくる。

他方で、支援する側は、自分のやっていることは役に立っている、これでいい、と思ってしまう。「ありがとう」と感謝されることで、自己陶醉にも陥りかねない。さらに、相手の役に立ちたいあまり、弱みを見せてはいけない、という思いにとらわれて強がらざるを得なくなる。弱みを見せられない人が、他者をケアするのはとても難しい。お互いに人間であり、共に悩んで共に生きている。人間関係に一方的な関係はありえないのである。

#### 同じ視点に立ち共に悩む

被災者支援は、「答えがないことに悩んでいる人に対する支援」である。人は「こうすれば、こうなる」という合理的な答えに目が向きがちだ。しかし、支援を続けるということは、「答えがないことに悩んでいる人が見つめる方向を、一緒に見つめる横並びの姿勢」でなければならぬ。イエス・キリストは、共に苦しむ神である。同じように支援者も共に悩み、苦しみを分かち合う姿勢が必要なのだ。

考えても答えが出ない時は、その都度、原点に戻れば疲れない。迷った時に、立ち返れる拠り所があれば強みになる。『聖書』はそうした心の原点となるはずだ。人生の意味や価値、本当に大事なことを自分の内持つことで、形や結果に惑うことなく、なすべきことが見出せるだろう。

日本YWCA東日本大震災  
被災者支援担当職員  
構成・樫山のぞ美

「体験を通して真の利用者理解と受容が初めて生まれてくる。授業では理念が実技の隅々まで浸透していた。」

「先生方のチームワーク、オムツで排尿する体験の宿題、グループディスカッション、毎日の振り返りなどの指導方法は私にとって新鮮だった。個人の尊厳を尊重した自立支援という介護の原則に納得！」

そして昨年11月、東京YWCAでは、5年ぶりに中国YWCAからの視察団を迎えた。福祉現場職員への研修事業を行うヒューマンサービスサポートセンターでの講義、板橋センターでのデイサービス見学、意見交換を行った。数度にわたる視察団の中でもひとときわ目立つ若い団員たちの姿に、かの地で若い層が専門職として着実に育っているのを目の当たりした思いだった。また、中国の各地で実践されている介護事業が高く評価されていると聞き、専門学校の教育が継承されていることを大変嬉しく思った。